

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) **公開特許公報 (A)**

(11)特許出願公開番号

**特開平11-157290**

(43)公開日 平成11年(1999)6月15日

(51)Int.Cl.<sup>6</sup>

B 43 L 19/00  
B 65 H 35/07

識別記号

F I

B 43 L 19/00  
B 65 H 35/07

H  
D

審査請求 未請求 請求項の数3 FD (全8頁)

(21)出願番号

特願平9-347179

(22)出願日

平成9年(1997)12月1日

(71)出願人 390039734

株式会社サクラクレバス  
大阪府大阪市中央区森ノ宮中央1丁目6番  
20号

(72)発明者 小林 宣暁

大阪市東成区中道1丁目10番17号 株式会  
社サクラクレバス内

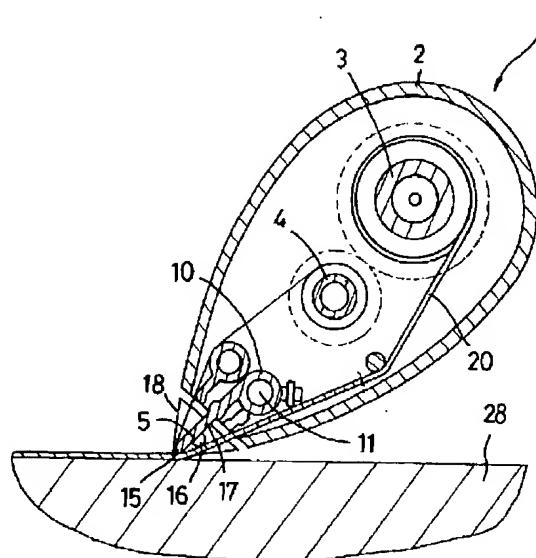
(74)代理人 弁理士 藤田 隆

(54)【発明の名称】 転写具

(57)【要約】

【課題】 外形が小さく、且つ積層テープを使い切るま  
で、複数の転写幅を選択することができる転写具を開発  
する。

【解決手段】 ケース2内に、積層テープが巻かれたリ  
ール3が内蔵されている。ケース2には、転写ヘッド5  
が設けられている。転写ヘッド5の先端側には、テー  
バ形状が設けられており、板状部材17の先端の稜線部分  
が、第一押圧部15として機能する。板状部材17の一  
方の面には半球状の第二押圧部16が形成されている。  
幅の広い転写を行う場合には、転写具1を立て、板状部  
材17の先端の第一押圧部15を紙等の被転写物28に  
当接させる。幅の狭い転写を行う場合には、図7の様に  
転写具1を寝かせて使用し、第二押圧部16を紙等の被  
転写物28に当接させる。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 一部に開口を有するケースと、ケース内に内蔵された積層テープと、積層テープを押圧する押圧部を有しケースの開口近くに設けられた転写ヘッドを備え、積層テープの一部をケースの開口から露出させ、転写ヘッドの押圧部を積層テープに押し当てて積層テープの積層物を転写する転写具において、前記転写ヘッドは二以上の押圧部を有し、当該押圧部の少なくとも一つは球面状であることを特徴とする転写具。

【請求項2】 一部に開口を有するケースと、ケース内に内蔵された積層テープと、積層テープを押圧する押圧部を有しケースの開口近くに設けられた転写ヘッドを備え、積層テープの一部をケースの開口から露出させ、転写ヘッドの押圧部を積層テープに押し当てて積層テープの積層物を転写する転写具において、前記転写ヘッドは形状の異なる二以上の押圧部を有し、当該押圧部同士は、不連続に配されていることを特徴とする転写具。

【請求項3】 一部に開口を有するケースと、ケース内に内蔵された積層テープと、積層テープを押圧する押圧部を有しケースの開口近くに設けられた転写ヘッドを備え、積層テープの一部をケースの開口から露出させ、転写ヘッドの押圧部を積層テープに押し当てて積層テープの積層物を転写する転写具において、前記転写ヘッドは球面状の押圧部を有することを特徴とする転写具。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、転写式修正具、蛍光色テープ、両面粘着テープの貼り付け治具等に利用される転写具に関するものである。

## 【0002】

【従来の技術】ボールペンや万年筆等で書かれたインキ書きの文字を修正する場合、旧来では液状の修正液が使用され、この液状の修正液を刷毛やペン状の塗布具によって修正部位に塗布していた。しかしながら修正液は液体であるため、修正部分に新たな文字を記載するには、液の乾燥を待たねばならない不便があった。そこで近年では、液状のものに代わって、転写式修正具が普及している。

【0003】転写式修正具は、例えば実開平5-13799号、実開平6-32446号、実開平6-63391号等に開示されたものである。転写式修正具は、ケース内に二つのリールが内蔵され、そのうちの一つに白色の塗膜層とフィルム層が積層された積層テープが巻き付けられている。そしてケースには一部に開口が設けられており、当該開口部に舌状の押圧部を備えた転写ヘッドが設けられている。積層テープは、この転写ヘッドの押圧部で折り返されて、もう一つのリールに巻き取られている。そしてこの折り返し部分がケースの外部に露出している。転写式修正具を使用する際には、転写ヘッドの押圧部を修正部位に押し当て、転写ヘッドによって積層

テープを修正部分に圧接しつつケースをずらしてゆく。その結果、リールから積層テープが繰り出され、修正部位に白い塗膜層が線状に転写される。

【0004】転写式修正具は、液の乾くのを待つ必要が無いので、迅速に修正作業を行うことができる利点がある。しかしながら、転写式修正具は、一回の修正幅が、積層テープの幅によって限定されてしまうという不満がある。すなわち転写式修正具は、積層テープの積層物（塗膜層）を修正部位に転写するものであるから、転写

10 される積層物の幅は常に一定であり、この幅を加減することはできない。そのため修正面積が広い場合には、平行に何度も何度もテープを移動して面を埋めつくす必要がある。逆に、文字の行間が詰まっている場合のように修正幅が狭い場合には、必要以外の部分にまで積層物が転写されてしまい、修正作業が困難となる。そこで転写幅を任意に変更できれば便利である。前記した実開平6-63391号は、転写される積層物の幅を変更することを目的の一つとするものであり、ケースの中に、二種類の幅の積層テープを内蔵している。

## 20 【0005】

【発明が解決しようとする課題】実開平6-63391号に開示された修正具は、転写幅を変更することができるものの、ケース内に二つの積層テープを内蔵するため、どうしても外形が大きくなってしまう問題点がある。またこの構成は、ケース内に二つの積層テープを内蔵するが、二つの積層テープの使用頻度は一様ではなく、相当の相違がある。そのためいずれか一方の積層テープだけが先に消耗し、その後は、結局旧来の單一幅の修正具と同一となってしまう。

30 【0006】本発明は、従来技術の上記した問題点に注目し、外形が小さく、且つ積層テープを使い切るまで、複数の転写幅を選択することができる転写具の開発を課題とするものである。

## 【0007】

【課題を解決するための手段】本発明者らは上記した問題点を解決するために、研究と試作を重ねた。そして転写ヘッドに形状の異なる複数の押圧部を設けることにより、転写される積層物の幅を変更することができることが分かった。この構成は、転写ヘッドに押圧部を複数設け、押圧部を選択的に使用し、当該押圧部によって積層テープを押圧するものである。しかし、さらに試作と実験を重ねるうち、単に押圧部を複数設けただけの構成では、綺麗な転写ができないことが判明した。すなわち押圧部を複数設けて、選択された押圧部によって積層物を転写する場合、転写時に他の押圧部によって積層テープが擦れ、紙等の不要部分に積層物が転写されてしまう。

また不要部分に積層物が転写されないまでも、積層テープが他の押圧部と擦れることによって傷み、選択された押圧部に押圧される以前にしわや剥がれが生じ、正常な転写が行われない。

【0008】さらに転写幅が小さい場合には、押圧部の各部分における圧力分布のばらつきが大きく、転写幅が一定となりにくいという問題があった。すなわち押圧部は紙等の被転写物に対して真っ直ぐに押し当てられるべきであるが、使用者の癖や姿勢等によりどうしても幾分傾く。特に転写幅が小さい場合には、被転写物と押圧部との接触幅が小さいために、押圧部を真っ直ぐに維持して操作することは難しい。そのため押圧部の角の部位に圧力が集中し、転写幅がばらついてしまう。

【0009】そこで本発明者らは、これらの問題点に鑑み、さらに改良を重ね、実用的な転写具を完成するに至った。こうして完成された請求項1に記載の発明は、一部に開口を有するケースと、ケース内に内蔵された積層テープと、積層テープを押圧する押圧部を有しケースの開口近くに設けられた転写ヘッドを備え、積層テープの一部をケースの開口から露出させ、転写ヘッドの押圧部を積層テープに押し当てて積層テープの積層物を転写する転写具において、前記転写ヘッドは二以上の押圧部を有し、当該押圧部の少なくとも一つは球面状であることを特徴とする転写具である。

【0010】本発明の転写具は、球形の押圧部を有する。本発明の転写具では、押圧部の形状が球形であるため、使用者がどの様な角度で押圧部を被転写物に押し当てても、積層テープと押圧部との接触状態は変わらない。そのため使用者の手元が多少ぶれても、転写幅は一定である。また使用者が他の押圧部を選択して転写を行う際には、積層テープは、前記した球形の押圧部を滑る。すなわち他の押圧部を選択して転写を行う際には、多くの場合、従来技術と同様に積層テープは円形の押圧部とも接することとなるが、本発明では、押圧部は円形であるために積層テープが滑りやすく、積層テープを傷つけない。

【0011】また同様の目的を達成するための請求項2に記載の発明は、一部に開口を有するケースと、ケース内に内蔵された積層テープと、積層テープを押圧する押圧部を有しケースの開口近くに設けられた転写ヘッドを備え、積層テープの一部をケースの開口から露出させ、転写ヘッドの押圧部を積層テープに押し当てて積層テープの積層物を転写する転写具において、前記転写ヘッドは形状の異なる二以上の押圧部を有し、当該押圧部同士は、不連続に配されていることを特徴とする転写具である。

【0012】本発明の転写具では、転写ヘッドは形状の異なる二以上の押圧部を有し、当該押圧部同士は、不連続に配されている。そのため使用者が一つの押圧部を選択して転写を行う際に、積層テープは、他の押圧部と接しにくい。また例え他の押圧部と接しても、積層テープを押圧する力は弱く、積層テープを傷つけない。

【0013】また前記した発明と主たる構成が共通するもう一つの発明は、一部に開口を有するケースと、ケー

ス内に内蔵された積層テープと、積層テープを押圧する押圧部を有しケースの開口近くに設けられた転写ヘッドを備え、積層テープの一部をケースの開口から露出させ、転写ヘッドの押圧部を積層テープに押し当てて積層テープの積層物を転写する転写具において、前記転写ヘッドは球面状の押圧部を有することを特徴とする転写具である。

【0014】本発明の転写具は、球形の押圧部を有するので、使用者がどの様な角度で押圧部を被転写物に押し当てても、積層テープと押圧部との接触状態は変わらず、使用者の手元が多少ぶれても、転写幅は一定となる。

#### 【0015】

【発明の実施の形態】以下さらに、本発明の実施形態について説明する。図1は、本発明の実施形態の転写具の正面断面図である。図2は、図1の転写具の転写ヘッドの先端部分の斜視図である。図3は、図1の転写具の転写ヘッド部分の先端部分の正面図及び底面図である。図4は、積層テープの斜視図である。図5は、使用時における転写ヘッドと積層テープ及び被転写物の関係を示す説明図である。図6は、図5に示す使用状態において積層テープが剥離する様子を説明する説明図である。図7は、使用時における転写ヘッドと積層テープ及び被転写物の関係を示す説明図である。図8は、図7に示す使用状態において積層テープが剥離する様子を説明する説明図である。図9は、本発明のもう一つの実施形態の使用時における転写ヘッドと積層テープ及び被転写物の関係を示す説明図である。図10～図13は、他の実施形態における転写具の転写ヘッド部分の先端部分の正面図及び底面図である。

【0016】図1において、1は、本実施形態の転写具を示す。本実施形態の転写具1は、具体的には転写式修正具であり、ケース2内に、二つのリール3、4が内蔵されている。またケース2には、本実施例形態に特有の部材たる転写ヘッド5が設けられている。以下、順次説明する。

【0017】本実施形態で採用するケース2は、ポリプロピレン等の樹脂の射出成形によって作られたものであり、偏平形状であって、正面から見て図1の様な橢円形をしている。ケース2は、裏板と表板(図示せず)とを合わせたものであり、内部にはリール3等が内蔵される空間がある。ケース2の一端部には開口8が設けられている。

【0018】そしてこの開口8の部分には、ケース2とは別成形によって作られた転写ヘッド5が設けられている。転写ヘッド5は、図1の様に後端側にリング状の係合部10を持つ。係合部10は、ケース2に設けられたピン11と係合して転写ヘッド5をケース2に固定する役目をする他、転写ヘッド5に弾力性を付与する働きをする。

【0019】一方、転写ヘッド5の先端側には図1乃至図3に示すように、二つの押圧部15、16が設けられている。すなわち転写ヘッド5の先端側は、前記したリシング状の係合部10に連続する板状部材17を持ち、その最先端部分にはややテープ形状が設けられている。そして板状部材17の先端の稜線部分が、第一押圧部15として機能する。また板状部材17の一方の面には半球状の第二押圧部16が形成されている。第一押圧部15は、前記した様に板状部材17の先端の稜線部分であり、第二押圧部16は板状部材17の平面部分に設けられた半球部分であり、第一押圧部15と第二押圧部16は不連続に配されている。板状部材17の先端部近傍の両側面には、三角形状のガイド18が設けられている。

【0020】転写ヘッド5の材質及び製造方法は任意であるが、ポリエチレン、ナイロン、ポリアセタールやポリプロピレン等の樹脂の射出成形によって係合部10、板状部材17、第一押圧部15、第二押圧部16及びガイド18を一体的に同時成形することができる。また第二押圧部16だけを金属で作ることも推奨される。第二押圧部16に金属等の硬い素材を採用すると、第二押圧部16を被転写物に押し当てた際に第二押圧部16の変形量が少なく、第二押圧部16はより点接触に近い状態で被転写物と接する。そのため転写具1は、転写幅の変動が少ないものとなる。一方、第二押圧部16に柔らかい素材を採用すると、第二押圧部16にかける押圧力により、第二押圧部16が変形し、被転写物との接触面積が変動する。そのため転写幅が変動する。したがって力加減によって転写幅を変動させたい様な用途に使用する場合には、第二押圧部16は柔らかい素材が適する。

【0021】リール3、4は、公知の転写具と大差なく、回転軸を有し、当該回転軸を介してケース2に回転自在に支持されている。またリール3、4には、図示しない歯車が取り付けられており、両者は互いに嵌合していて積層テープ20が弛むことのないように工夫されている。

【0022】そして前記した二つのリール3、4の内、転写ヘッド5から遠い方のリール3には、転写前の積層テープ20が巻かれている。そして積層テープ20は、ケース2の開口8に延び、転写ヘッド5と当接し、第二押圧部16を経て第一押圧部15に至り、第一押圧部15で折り返される。そしてさらにもう一つのリール4に巻き取られる。

【0023】なお積層テープ20は、ポリエスチル樹脂等の離形性に優れたフィルムの基材25に、隠蔽性に優れ、粘着性を有する積層物(塗膜層)26を積層したものである。隠蔽性に優れた積層物(塗膜層)26を構成する物質は、一般的には白色顔料たる酸化チタン粉末が用いられるが、他にチタンイエロー、酸化鉄、群青、コバルトブルー、酸化クロムグリーン、スピネルグリーン、黄鉛、クロムバーミリオン、カドミウムイエロー、

カドミウムレッド等の他の色の顔料を使用する場合もある。また他にアゾレーキ系、ハンザ系、ベンズイミダゾロン系、モノアゾ系、フタロシアニン系、キナクリドン系、アンスラキノン系、イソインドリロン系等の有機顔料も使用可能である。

【0024】本発明の転写具では、積層テープ20の積層物(塗膜層)26を部分的に剥離して転写を行うので、積層物(塗膜層)26は、公知のものよりも破断強度が低いものを採用することが望ましい。より具体的には、破断強度が $1.3 \times 10^2 \text{ g/mm}^2$ 以下であることが望ましい。また積層テープ20は、公知の転写具に使用されているものをそのまま使用して差し支えないが、特に図4に示すような長手方向にスリット27が設けられたものを使用することが推奨される。図4に示す積層テープ20は、基材25に積層物(塗膜層)26を積層した点は公知のそれと同様であるが、積層物(塗膜層)26が任意の幅に剥離することができる様に、積層物(塗膜層)26に長手方向に延びるスリット27が設けられている。そのため幅の狭い転写を行う際には、積層物(塗膜層)26はスリット27の部分で適当な幅に切れるので、転写物の端面が綺麗である。

【0025】次に、本実施形態の転写具1の作用を、使用手順に沿って説明する。転写具1の基本的な作用は、公知のそれと大差無く、修正しようとする紙等の上に転写ヘッド5を押し当て、転写ヘッド5と紙等との間に積層テープ20を介在させて転写具1を移動させる。すると積層テープ20の積層物(塗膜層)26が基材25から剥離し、修正部位に転写されてゆく。また転写具1の移動に伴い、リール3から新たな積層テープ20が次々に繰り出され、積層物(塗膜層)26は修正部位紙に連続的に転写されて行く。また残った基材25は、順次リール4に巻き取られて行く。

【0026】ここで、本実施形態の転写具1は、幅の広い転写と幅の狭い転写を選択的に行うことができる点に特徴がある。すなわち幅の広い転写を行う場合には、図5の様に転写具1を立て、板状部材17の先端の第一押圧部15を紙等の被転写物28に当接させる。そして第一押圧部15によって積層テープ20を押圧し、積層物26を剥離し被転写物28に転写する。板状部材17の先端によって構成される第一押圧部15は、積層テープ20の幅よりも広いので、図6の様に積層テープ20の全幅にわたって積層物26が剥離され、幅の広い転写が行われる。なおこの時、積層テープ20は、第二押圧部16とも触れるが、第二押圧部16は半球状であるために容易に滑り、積層テープ20が傷むことはない。

【0027】次ぎに幅の狭い転写を行う場合には、図7の様に転写具1を寝かせて使用し、第二押圧部16を紙等の被転写物28に当接させる。そして第二押圧部16によって積層テープ20を押圧し、積層物26を剥離し被転写物28に転写する。第二押圧部16は、前記した

様に半球状であるから、平面たる紙等の被転写物28とは点接触することとなる。そのため積層テープ20は、狭い幅で剥離され、幅の狭い転写が行われる。また使用者の手元が多少ぶれても、第二押圧部16は、球面であるから被転写物28とは常に点接触し、円滑な転写が行われる。なお、第二押圧部16は半球状であり、どの部位が当接しても被転写物とは常に点接触となるため、転写具1を曲線状に移動させても円滑な転写が行われる。すなわち第一押圧部15の様な直線状の押圧部15をもって転写する場合には、押圧部15の当接角度によって転写幅が変わったり、皺が発生するので、転写具1は直線的に移動させる必要がある。これに対して第二押圧部16は、当接角度に関係なく被転写物28との接触状態は一定となるため、転写具1を曲線的に移動させても円滑に転写を行うことができる。

【0028】以上、説明した実施形態では、転写ヘッド5から遠い方のリール3に転写前の積層テープ20を巻き、半球状の第二押圧部16を経て直線状の第一押圧部15に至り、当該第一押圧部15で折り返してリール4に巻き取られる構成を例示した。すなわち上記した実施形態では、積層テープ20は、先に半球状の第二押圧部16に当たり、次いで直線状の第一押圧部15と当たる。この様に積層テープ20が先に半球状の第二押圧部16と当たる巻回経路とすると、使用前の積層テープ20が球面の第二押圧部16と当接することとなり、第二押圧部16を使用して転写を行う場合は勿論のこと、第一当接部15を使用して転写を行う場合であっても、第一当接部15と当たる前に積層テープ20が傷むことがなく、推奨される。

【0029】なお、上記した実施形態の作用の説明の中で、幅の広い転写を行う場合に、図5の様に板状部材17の先端であって、第二押圧部16が設けられた側の角によって積層テープ20を押圧し、積層物26を剥離して被転写物28に転写すると説明したが、図9に示すように板状部材17の他方の角を使用して転写を行ってもよい。先に示した図5の例では、図面左側から右側に向かって転写具1を移動させるが、今回説明する図9の様に板状部材17の他方の角を使用して転写を行う場合には、逆に図面右側から左側に向かって転写具1を移動させる。前者の使用方法は、多くの場合、転写具1を引き移動して使用するが、後者の場合は、転写具1を押し移動して使用することとなる。

【0030】以上説明した実施形態では、第二押圧部16が半球状をしたものを示したが、本発明は、必ずしも半球形状にこだわるものではない。すなわち第二押圧部は、球面でありさえすればよく、当接部分が球の一部をなすものであれば十分である。図10は、第二押圧部の形状が異なる例を示すものであり、第二押圧部30は、板状部材17の一面から突出し、その端面が球の一部を構成する曲面となっている。第一押圧部15は、先の実

施形態と同一であり、板状部材17の先端の稜線部分である。また第二押圧部30は板状部材17の平面部分から突出したものであり、第一押圧部15と第二押圧部30は不連続に配されている。

【0031】また上記した実施形態では、板状部材17の先端側を第一押圧部15として使用し、幅広い転写を行う構成を説明したが、図10に示すように、逆に板状部材17の先端に半球状の押圧部32を設けてよい。図10に示す例では、板状部材17は先端が細くなつた10テバ形状であり、その最先端部分に半球状の押圧部32が設けられている。また板状部材17の一方の面の中央部分に角部33が設けられており、幅広い転写を行う場合には、当該角部33をもって積層テープ20を押圧する。すなわち図10に示す例では、角部33が押圧部として機能する。

【0032】図10に示した例の様に、先端に半球状の押圧部32を設け、板状部材17の一方の面の中央部分の角部33をもう一つの押圧部として使用する構成を採用する場合には、いずれの押圧部を使用する場合であっても、積層テープのバージン面から転写が開始されるという特有の作用効果がある。すなわち半円状の第二押圧部16を使用して、幅の狭い転写を行い、引き続いて第一押圧部15を使用して幅の広い転写を行うとすると、第二押圧部16を使用して、幅の狭い転写をし終えた時、次に使用する第一押圧部15の位置にある積層テープ20は、まだ転写作業に供されておらず、バージンの状態である。したがって直ちに幅広の転写を行うことができる。

【0033】逆に幅広い転写を行った後に、狭い幅の転写を行う場合には、第一押圧部15での転写を終えた時に、次に使用する第二押圧部15に位置する積層テープ20は、基材25だけであって積層物26は無い。従って第一押圧部15で積層テープ20を押圧しても紙等の被転写物には何も転写されない。そして使用者が転写具1を移動させるうちに、新たな転写テープ20が繰り出されて転写テープ20のバージン面が第二押圧部15に現れ、幅の狭い転写が可能となる。なお、この様な常に積層テープ20のバージン面から転写が開始される作用効果は、積層テープ20が幅広い押圧部側から幅の狭い押圧部側に移動する構成とすることにより発揮されるものである。したがって、前述した図3の様な構成の転写具1であっても、リール4に、転写前の積層テープ20を巻き、リール3で巻き取る構成とすれば同様の作用効果が発揮される。

【0034】また他に本発明の変形例として、図12に示すように、板状部材17の双方の面に大きさの異なる半球状の押圧部16, 35を設けることも可能である。

【0035】さらに図13の様に、板状部材17の片方の面に複数の押圧部36, 37を設けてよい。

【0036】以上の実施形態では、ケース2の中に二つ

9  
のリール3、4を内蔵して、使用済みの積層テープ20を巻き取る構成を例示したが、ケース内にただ一つのリールを内蔵して、使用済みの積層テープ20は外部に放出してしまう構成のものにも、本発明は適用可能である。

【0037】また以上の実施形態は、いずれも本発明を転写式修正具に応用した例を示すものであるが、本発明の用途は転写式修正具に限定されるものではなく、他に蛍光テープや両面粘着テープの貼り付け治具等にも応用可能である。なお蛍光テープには、ラインマーカの代わりとして使用されるものが実用化されており、この蛍光テープの転写にも本発明の転写具が採用できる。ラインマーカの代わりとして使用される蛍光テープは、先の実施例で説明した塗膜層の代わりに、透明性を有する蛍光顔料層を設けたものであり、フィルムの基材から蛍光顔料を含んだ塗膜層を剥離して転写するものである。また他に、基材とは別途に透明の蛍光フィルム層を有し、基材からフィルム層と蛍光フィルム層を剥離するものもある。両面粘着テープには、離型紙層に糊層が積層されたものあり、離型紙層から糊層を剥離して転写するものも知られている。

#### 【0038】

【発明の効果】本発明の転写具は、ただ一つの積層テープをもって複数の幅の転写を行うことができるものであり、外形が小さいという優れた効果がある。また本発明の転写具によると、積層テープを使い切るまで、複数の転写幅を選択することができる。

【0039】また請求項1及び3に記載の転写具は、押圧部の形状が球面状であるため、使用者がどの様な角度で押圧部を被転写物に押し当ても、積層テープと押圧部との接触状態は変わらず、使用者の手元が多少ぶれてても、転写幅が変動しないという効果がある。また請求項1及び2に記載の発明では、一方の押圧部を使用している際に、他方の押圧部で積層テープを傷つけることが少ない。そのため請求項1及び2に記載の発明は、転写の仕上げが綺麗であるという効果がある。

#### 【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施形態の転写具の正面断面図である。

【図2】図1の転写具の転写ヘッドの先端部分の斜視図である。

【図3】図1の転写具の転写ヘッド部分の先端部分の正面図及び底面図である。

【図4】積層テープの斜視図である。

【図5】使用時における転写ヘッドと積層テープ及び被転写物の関係を示す説明図である。

【図6】図5に示す使用状態において積層テープが剥離する様子を説明する説明図である。

【図7】使用時における転写ヘッドと積層テープ及び被転写物の関係を示す説明図である。

【図8】図7に示す使用状態において積層テープが剥離する様子を説明する説明図である。

【図9】本発明のもう一つの実施形態の使用時における転写ヘッドと積層テープ及び被転写物の関係を示す説明図である。

【図10】さらにもう一つの実施形態における転写具の転写ヘッド部分の正面図及び底面図である。

【図11】さらにもう一つの実施形態における転写具の転写ヘッド部分の先端部分の正面図及び底面図である。

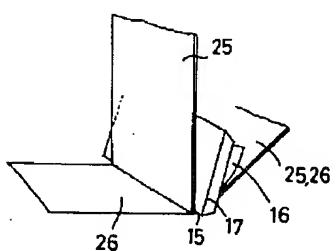
【図12】さらにもう一つの実施形態における転写具の転写ヘッド部分の先端部分の平面図、正面図及び底面図である。

【図13】さらにもう一つの実施形態における転写具の転写ヘッド部分の先端部分の平面図、正面図及び底面図である。

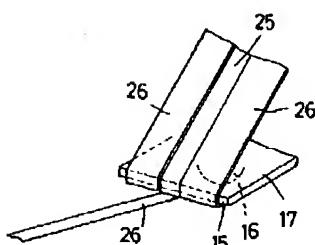
#### 【符号の説明】

1	転写具
2	ケース
30	5 転写ヘッド
15	15 第一押圧部
16	16 第二押圧部
20	20 積層テープ
30	30 第二押圧部
32	32 押圧部
33	33 角部（押圧部）
35	35 押圧部
36	36 押圧部
37	37 押圧部

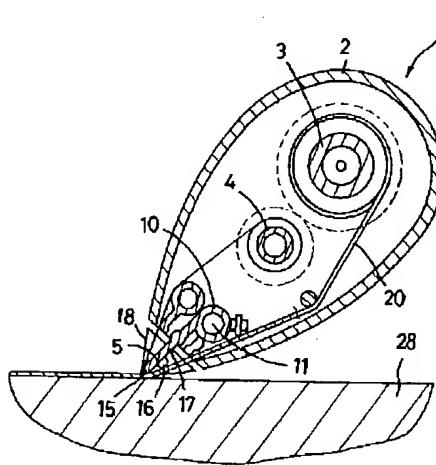
【図6】



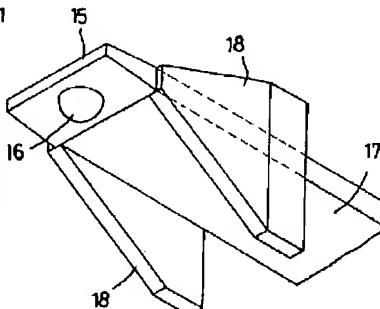
【図8】



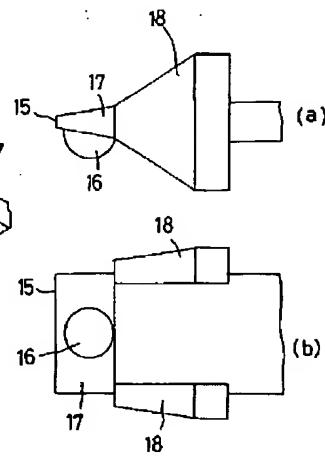
【図1】



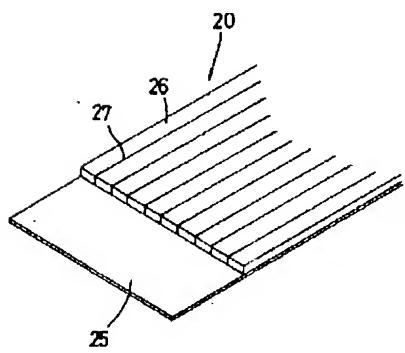
【図2】



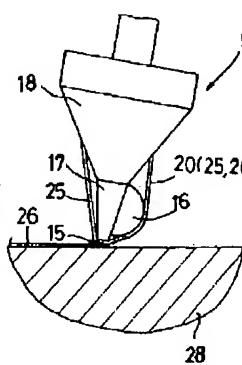
【図3】



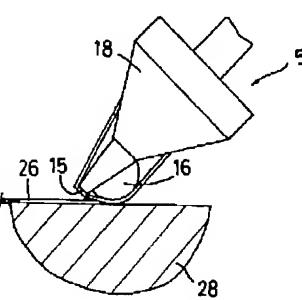
【図4】



【図5】

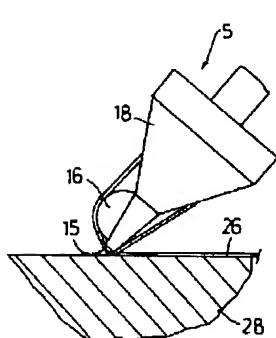


【図7】

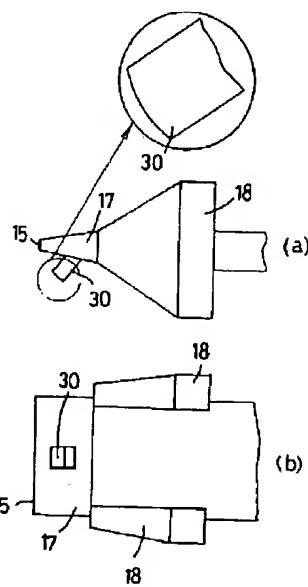
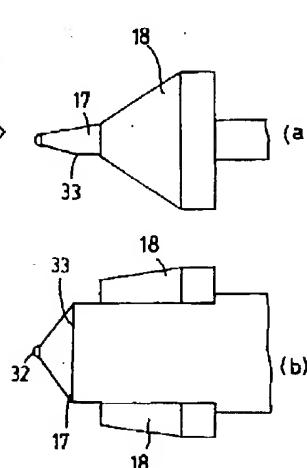


【図10】

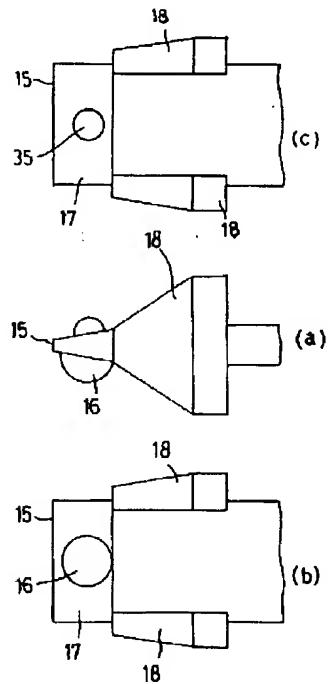
【図9】



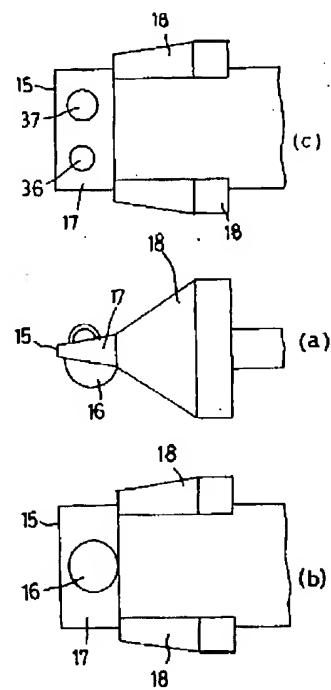
【図11】



【図12】



【図13】



PAT-NO: JP411157290A  
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 11157290 A  
TITLE: TRANSFER UTENSIL  
PUBN-DATE: June 15, 1999

INVENTOR- INFORMATION:

NAME	COUNTRY
KOBAYASHI, NOBUAKI	N/A

ASSIGNEE- INFORMATION:

NAME	COUNTRY
SAKURA COLOR PROD CORP	N/A

APPL-NO: JP09347179

APPL-DATE: December 1, 1997

INT-CL (IPC): B43L019/00, B65H035/07

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a transfer utensil wherein the outer shape is small, and a plurality of transfer widths can be selected until a laminated tape is used up.

SOLUTION: A reel 3 on which a laminated tape 18 wound is housed in a case 2. In the case 2, a transfer head 5 is provided. On the tip end side of the transfer head 5, a tapered shape is provided, and the ridge line part at the tip end of a plate-form member 17 functions as a first pressing part 15. On one of the surfaces of the plate-form member 17, a semi-spherical second pressing part 16 is formed. When a transfer of a wide

width is performed, this transfer utensil 1 is stood, and the first pressing part 15 at the tip end of the plate-form member 17 is brought into contact with an article 28 to be transferred such as a paper. When a transfer of a narrow width is performed, the transfer utensil 1 is used by laying it down, and the second pressing part 16 is brought into contact with the article 28 to be transferred such as a paper.

COPYRIGHT: (C)1999, JPO